

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 10	公益目的事業 17
主査名	福田大輔 東京大学教授	
研究テーマ	サブスクリプション型 MaaS のバンドリングに関する交通行動モデル研究	
ICT を活用して複数の交通サービスを束ね、一つのサービスとして捉える MaaS (Mobility as a Service) に関する研究が、交通工学、交通計画学、交通経済学の分野で進展しつつある。MaaS の主要な特徴の一つとして運賃支払いの統合が挙げられるが (サブスクリプション型 MaaS)、それを効果的に都市圏内に導入するためには、定額料金水準とサービスの利用可能範囲の適切な組合せ (バンドリング) についての適切な評価が必要である。MaaS は多様な移動手段を自由に組み合わせて、より柔軟なマルチモーダル経路選択の機会を利用者に与えるため、こうしたサービスの実現による利便性の変化を評価するためには、複数の交通手段と複数の経路を同時に選択する、マルチモーダル交通行動モデルが必要である。こうした問題意識から、研究メンバーの田淵と福田は、交通行動分析の観点からサブスクリプション型 MaaS の設定空間範囲とそれに対する利用者の最大許容料金の関係性を定量的に評価するための手法を構築した (田淵・福田、 2020、都市計画論文集)。しかし、限定的な状況を想定した検討にとどまっており、実適用に向けてはさらなる研究展開が必要である。 本研究では、「どういう定額料金の設定を行えば、現状において料金が一体化されていない個別の公共交通サービスを利用している利用者が MaaS 利用へとシフトしてくれるのか」という問いに答えるべく、サブスクリプション型 MaaS のバンドリング評価のための交通行動モデル研究の開発を行う。具体的には、田淵・福田 (2020)には無い下記の展開を行う。 ・鉄道、バス、自転車に加え、新たにカーシェア等の交通手段を考慮する。そのための選好意識調査を実施する。 ・トリップ単位での交通行動モデルから、トリップチェーンやツアー単位へと拡張する。 ・利用者の観点のみならず、MaaS オペレータの観点からの最適なサブスクリプション・バンドリングについて検討する。		